

小林平大の

がん治療の進化を  
目撃せよ!



第26回

死因第二位の「心疾患」と  
第四位の「脳血管疾患」の  
原因は血栓症で合計する  
と第一位の「ガン」と同数

厚生労働省が発表した「二〇二〇年人口動態統計（確定数）の概況」によれば、日本人の死因の第一位は「ガン（悪性新生物）」で一九八一年以降その順位を保っています。続く第二位は「心疾患（高血圧性を除く）」で、こちらも長くその順位を維持しています。そして、二〇一八年以降は、昨今の日本人の長寿化を反映してランクインした「老衰」が三年連続で第三位です。続く第四位は「脳血管疾患」。二〇一七年まで第三位だった「肺炎」は第五位に後退しています。

ーゲン繊維が血管の内側に露出すると、止血機構が働きはじめます。内皮細胞が剥がれた状態を「内皮細胞障害」といい、むき出しになった血管壁の部分に血小板がどンドン集まってきて血小板の塊を作ります。さらに、血小板よりも凝固能力の高いたんぱく質である「フィブリン（繊維素）」が集まってきてさらに大きな血の塊を作ります。最後には、血の塊が血管の内腔を塞ぐほどの大きさになって血栓を引き起こしてしまうのです。

ふつかって長い年月をかけて徐々に堤防をくずしていくように、流れの速い血流（高血圧）や漂流物の多い血液（脂質異常症や老廃物の多いドロドロ血液など）が血管のカーブ地点にぶつかると傷がつきやすくなり、血栓ができやすくなります。また、動脈と違って血流の遅い静脈でも血流が停滞しやすく、血液の粘度が高いために血栓ができやすくなります。

溶機構のしくみの主役は「プラスミン」というフィブリンを溶かす酵素です。プラスミンは傷口を塞いでいた血栓を溶かすことで、塞がってしまった血管を正常な状態に戻すのです。このように止血機構と線溶機構がセットになって働くことで、ヒトは出血を最低限に食い止めることもに血流を回復させることができるのです。

血栓症の最も有効な予防措置は、体内の血栓溶解能力を上げるためにフィブリン溶解能力の高い成分を摂取することです。宮崎医科大学名誉教授の美原恒先生が食用ミミズの内臓から発見した「ルンブロキナーゼ」という酵素は、血栓治療薬のウロキナーゼの八・七倍も酵素溶解能力が高いことが実験で明らかになっています。また、これまでの臨床試験で、心筋梗塞や脳梗塞、動脈硬化の原因とされる血液中のフィブリンを溶解する高い効果が確かめられています。

こうして見るとガンはやはり怖い病気と思ってしまうですが、別の見方をすることもできます。ガンは、発生した部位や臓器にかかわらずすべてをガンと計上するため、死亡数が多くなります。しかし、例えば第二位の心疾患の約九割は心筋梗塞という血栓症です。また、第四位の脳血管疾患のおよそ四分の三は脳梗塞という血栓症です。これら二つの血栓症を合計すると、ガンとほぼ同数となります。

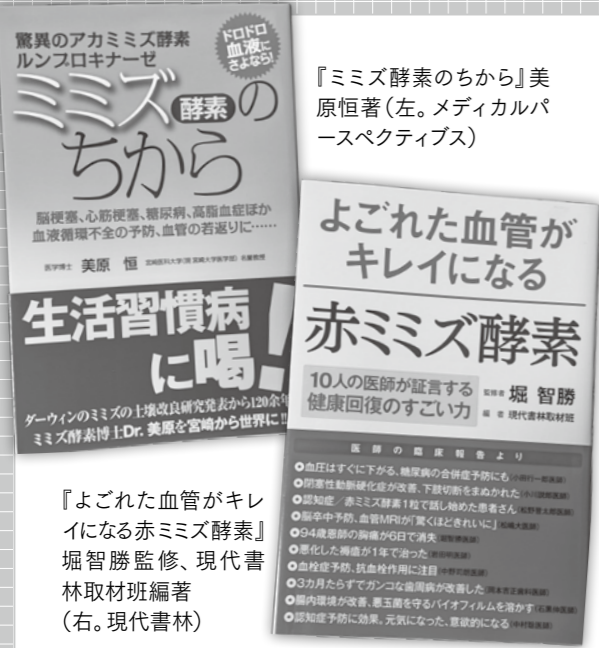
き物の中で最も止血機構が発達していることが明らかになってきたのです。止血機構とは、ケガなどで血管が傷ついたときに血液が流れ出るのを止めるための防御機構です。高等動物であるヒトにとって血液は生命維持に欠かせない非常に重要な存在であるため、防御機構としての止血機構を発達させたのです。

【こばやし・ひでお】  
東京都八王子市出身。幼少期に膠原病を患い、闘病中に腎臓疾患や肺疾患など、さまざまな病態を併発。7回の長期入院と3度死にかけた闘病体験を持つ。現在は健康者とほぼ変わらない寛解状態を維持し、その長い闘病体験と多くの医師・治療家・研究者との交流から得た予防医療・先進医療・統合医療に関する知識と情報を日本中の医師と患者に提供する会を主催。一般社団法人日本先進医療臨床研究会代表理事（臨床研究事業）、一般社団法人ガンゼロ推進協議会・代表理事（統合医療の普及推進）などの分野で活動中。

血栓症について詳しく調べていくと、大きな原因としてヒトの進化が関わっていることが分かってきました。数多くの研究から、ヒトはほかのあらゆる生き物の中で最も止血機構が発達していることが明らかになってきたのです。

ところが、あまりにも発達したヒトの止血機構が血栓を作りやすい性質を持つという諸刃の剣ともいえる結果を導き出すことになってしまいました。ほかの実験動物などでは血栓を作ろうと努力してもなかなか作ることができません。高等動物であるヒトだけが高度な止血機構を持った結果、血栓症という病気を起こしやすい動物になったというパラドックスが起こっているのです。

止血機構は血管の外側だけでなく、血管の内側が炎症などで傷つくことでも働きます。血管の内側には「内皮細胞」と呼ばれる細胞の層があって血管の内側から守っています。内皮細胞が正常であるかぎり止血機構は働かず、血栓ができることはありません。



『よれた血管がキレイになる赤ミミズ酵素』堀智勝監修、現代書林取材班編著（右、現代書林）

液体が流れるようにするため、血栓を溶かす「線溶機構」というしくみが働きはじめます。線

また、一度血栓症を起こした方にとって再発は命取りです。一度発症したということは血栓ができやすい体質になっていると考えられます。血液をいつもきれいにしておくことが大切です。血管の老化を少しでも止める必要があります。一度発症した後はそれまでの食習慣や運動習慣を見直し、二度と発症しないようにしなければなりません。

さらに、多数の医師からルンブロキナーゼの摂取によって効果があつたとさまざまな病気の治癒・改善例の報告があります。それらの病気は、心臓病・脳卒中・動脈硬化のほか、閉塞性動脈硬化症、高血圧、糖尿病、脂質異常症、パーキンソン病、腎血管性高血圧、慢性腎臓病、正常眼圧緑内障、ED（勃起不全）、老眼、認知症、歯周病、褥瘡、発達障害、下肢動脈狭窄症、下肢静脈瘤など、非常に多岐にわたっているのです。